

第四十九回全国市長会議における挨拶

(昭和五十四年六月十四日 都市センター)

本日、ここに第四十九回全国市長会議が開催されるに当たり一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、地方行政の第一線において、日々ご努力を続けておられる各位に対し、心より敬意を表する次第であります。

本年は、明治二十二年の初の市制施行から数えて九十周年に当たる記念すべき年であります。この長い歴史のなかで、都市行政は、幾多の試練を経つつも、着実に発展を遂げてまいりました。このあゆみのなかで、全国市長会は、常に指導的役割を果たされ、わが国における地方自治の重要な推進母体として活動してこられたのであります。

わが国は、明治以後百年のたゆまざる近代化の努力の精華として、今日欧米先進諸国に比肩する自由と繁栄、平等と進歩を享受するに至りました。いまやわれわれは、これまでに築きあげた偉大な成果を基盤として、二十一世紀に向けて、安らぎと風格、自由な活力と多様な文化に彩られた、新しい国づくり、社会づくりに本格的に取り組むべき時代を迎えております。田園都市国家構想は、このような見地に立つて、

都市に田園の安らぎを育み、田園に都市の活力をもたらし、この国土の上に、活発で安定した地域コミュニティの多彩なネット・ワークを形成するための、政策の基本理念を明らかにするとともに、この理念に照らして、諸施策の再吟味と一層の充実を図るなど、施策面での基盤を整備しようとするものであります。

申すまでもなく、この構想は、国の果たす役割と相俟つて、それぞれの地方自治体の創意工夫に基づく主体的な取組みを不可欠としております。すでに全国各地において、そのようなご努力が現に始まっていることは、誠に欣ばしく存する次第であります。

現代は、地方の時代であります。欧米先進工業諸国に追いつくことを国民的目標として、中央集権、中央集中への傾斜のもとでひたすら走り続けた時代は、いまひとつの転機を迎えようとしております。中央への過度の集中は、同時に中央への過剰な依存をもたらします。今後、目指すべき大きな方向は、以前に増して、全国あらゆる地域の調和と主体性ある発展であり、そのための行政的、経済的、文化的諸機能の適切な分散であります。このことは、もとより一朝にして成るものではありません。関係諸方面の理解と協力のもとに、地方の時代の担い手である自治体の皆さまと国の側との共同の努力によって、手順を踏みつつ着実にその実現が図られるべきものであります。

次に、財政の問題であります。現在、国も地方も誠に厳しい状況にあることは、皆さま方ご承知のとおりであります。高度経済成長の時代は終わり、財政が国民のあらゆる要求にそれなりに対応できた条件はもはや失われました。行政組織の簡素合理化、行政が関与すべき範囲の見直しなどを通じて財政の健全

化を果たすことが、国としても、地方自治体におかれましても、今日真剣に取り組むべき最重要の課題になつております。政府は、すでにその作業に取りかかつておりますが、地方自治体におかれましても、歳入、歳出両面において思い切った改善の努力を進められるよう期待するものであります。

最後に、エネルギーについて一言申し述べます。

ご承知のとおり、現在、石油をめぐるエネルギー情勢は困難の度を加え、財政、経済にわたる施策の成否が、これにいかに対処するかにかかっていると申しても過言ではありません。今月末開催の主要国首脳会議におきましても、このエネルギー問題は最大の課題の一つとなるものと思われまします。

就中、わが国は、石油のほとんど全量を、またエネルギー全体でもその九割までを海外に依存するといふ、先進国の中でも際立って特別の事情にある国であります。省エネルギーの促進と石油に代替するエネルギー源の拡大に努力すべき必要性は、わが国の場合とりわけ大きいものがありますことは、多言を要さないところであります。

地方自治体におかれましては、わが国のおかれたこうした厳しい状況を踏まえ、政府のエネルギー政策に対して、従来に増してのご理解と一層のご協力をいただくようお願いいたします。

終わりにのぞみ、全国市長会のみましますのご発展と市長各位のご健康、ご活躍を祈念して、ご挨拶いたします。